

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-182678

(43) 公開日 平成9年(1997)7月15日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 4 7 J 43/24			A 4 7 J 43/24	
B 0 2 B 1/06			B 0 2 B 1/06	D

審査請求 未請求 請求項の数 1 F D (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平7-352135

(22) 出願日 平成7年(1995)12月28日

(71) 出願人 596012180

有限会社コスモス

埼玉県三郷市早稲田4丁目25番3号

(72) 発明者 越塚 泰

埼玉県三郷市早稲田4丁目25番3号 有限

会社コスモス内

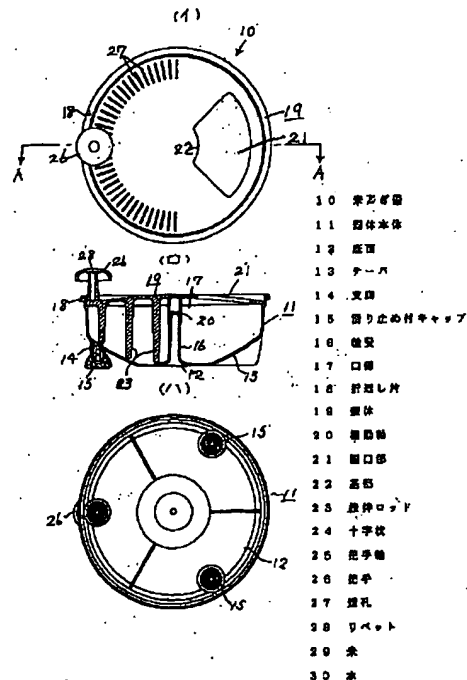
(74) 代理人 弁理士 石井 孝

(54) 【発明の名称】 米とぎ器

(57) 【要約】

【課題】 手指によって直接米とぎ動作をする煩わしさを解消した省力有効な米とぎ器。

【解決手段】 器体本体を底面をテーパにした扁平器体の中央に軸受を突設し、これに回転軸を枢着し、半体に開口部、半体に溝孔を設け、攪拌ロッドを下設した蓋体とし、上部に把手を設けて回転自在とした器体構造。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 器体本体と、その上面に着脱、かつ回転可能に掩蓋する蓋体とよりなる扁平状円形の器具であって、器体本体には外底面に支脚を隔設してテーパに形成した底面と、内底面の中央部分より軸受を突設し、蓋体下面には前記器体本体の軸受に枢着する回転軸を下設し、かつ蓋体の本体部に適宜大きさの開口を穿設し、他の半体に透孔溝を穿設し、かつ半体下面には数本の攪拌ロッドを下設すると共に、蓋体の一側上面に把手を設け、その把手と前記軸受に枢着した回転軸を介して蓋体を器体本体上面で回転するように設けたことを特徴とする米とき器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本願発明は生活用品として日常使用する新規な米とき器に関するものである。

【0002】

【従来の技術】米を主食としてきた日本人の食生活において、米は桶や鍋等の容器内に入れて水を注ぎ手で攪拌し、何回もとき汁を洗い流すという手段は古くから殆ど変わらない初歩的な手法で行われてきた、従って冬の寒い時は手荒れの原因となったり面倒であるという問題があった。出願人はこの変わらない従来の初歩的な手法を解消した有効な米とき器を提案するものである。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】上記の難点を解決する課題としては、米と水を入れた容器の中に手を入れないでも攪拌できる器具であること。第2に従来の手で米をとぐよりも手荒れしないような有効な手段で早くとげる省力機構であること。第3に使い易く量産加工に適し、実用的なコストで提供できる経済性のあることを課題とした。

【0004】

【課題を解決するための手段】上記の目的を達成する手段としては、器体本体と、器体上面に着脱、かつ回転可能に掩蓋する蓋体とよりなる扁平状円形の器具であって、器体本体には外底面に支脚を隔設し、底面をテーパに形成し、かつ内底面の中央部分より軸受を突設し、蓋体下面には前記器体本体の軸受に枢着する回転軸を下設し、かつ蓋体の半体部に適宜大きさの開口を穿設し、他の半体部には透孔溝及び半体部下面に数本の攪拌ロッドを下設すると共に、蓋体の一側上面に把手を設け、その把手と、前記軸受に枢着した回転軸を介して蓋体を器体本体の上面で回転するように設けたことを要旨とするものである。

【0005】

【発明の実施の形態】

【実施例】以下本発明の一実施例を図示説明する。図1(イ)、(ロ)、(ハ)は器体本体11と蓋体19よりなる米とき器の全体を示し、図中(イ)は平面図、

(ロ)は(イ)のA-A線断面図、(ハ)は底面図である。図2の(イ)、(ロ)、(ハ)は器体本体11のそれぞれを示し、図3の(イ)、(ロ)、(ハ)は蓋体19のそれぞれを示す。米とき器10の各部材について説明すれば器体本体11は耐蝕処理した金属体やアルミ、その他合金材、もしくは強質の合成樹脂材で加工する。図1、図2において器体本体11はほぼ安定性のある扁平状の円形器体とし底面12は中央部より周縁にかけてテーパ13に形成する。14は器体本体の外底面下部に隔設した支脚で、15は滑り止め付キャップである。16は器体本体の内部底面中央部に設けた筒状の軸受である。17は口部、18は口部周縁の折返し片である。次に図3の器体本体11上面に掩蓋する蓋体19は、蓋体下面中央に回転軸20を下設し、器体本体に直立した軸受16に回転自在に枢着する。21は蓋体の半体に設けた開口部で扇形に穿設し蓋を開けなくても開口部を介して米と水を入れる。扇形の基部22は手掛に都合のよい弧状に形成する。23は蓋下面に下設した攪拌ロッドで図1に示すように器体本体のテーパ状底面12、13に近接して垂下し回転軸を中心として多方向に放射状に数本下設し十字状24に形成して米の攪拌作用を昂める。26は蓋体の一端に設けた把手で、25は把手軸、28はリベットを示す。27は細長溝状の透孔で米のとき汁のみを流す溝孔となる。

【0006】

【作用】本発明は器体本体11に蓋体19の開口部21より米29と水30を入れ図4に示すように把手26により蓋体19を器体本体11上面で回転すれば蓋体の下面に下設した攪拌ロッド23が米を攪拌し米ときをするもので攪拌ロッドは十字形24に形成した形状で攪拌作用にすぐれている。又蓋体は器体本体の軸受16に枢着した蓋体の回転軸20と把手26を介して回転するので米の抵抗による蓋の外れが防止できスムーズな回転作用が期待できる。又水の補給ととき汁の洗い流しは蓋が器体本体に軸受されているので斜めにしてもずれることはなく、又図5のように水は米が流出しない細溝に形成した透孔27より片手で流出できる。尚器体本体の周縁部分を中央部に掛けてテーパ13に形成したので2、3合の少ない米でも中央部分に集合するので攪拌作用は十分である。

【0007】

【効果】上述の通り本発明米とき器は、家庭内で手軽に利用できる米の洗浄器具であって米と水の出し入れ、とき汁の洗い流し、米の攪拌作用等すべて手指を濡らさず蓋を回転させるだけで十分にスムーズな米ときを可能にした簡易米とき器である。手指を濡らさないで冬など億劫がらずにできる利点があり、攪拌機能も手指の操作に比較し数倍すぐれ、少家族や独身者の少量の米ときにも有効であり、かつ手指の肌荒れ防止に役立つもので米とき作業の面倒くさを解消する器具として省力化、能

率化に有効である。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明実施例の米とぎ器の全体図で、図(イ)は平面図、図(ロ)は図(イ)のA-A線中央断面図、図(ハ)は底面図である。

【図2】米とぎ器の器体本体の全体図で、図(イ)は平面図、図(ロ)は図(イ)のB-B線中央断面図、図(ハ)は底面図である。

【図3】米とぎ器の蓋体の全体図で、図(イ)は平面図、図(ロ)は図(イ)のC-C線中央断面図、図(ハ)は底面図である。

【図4】米とぎ器の攪拌作用を示す図である。

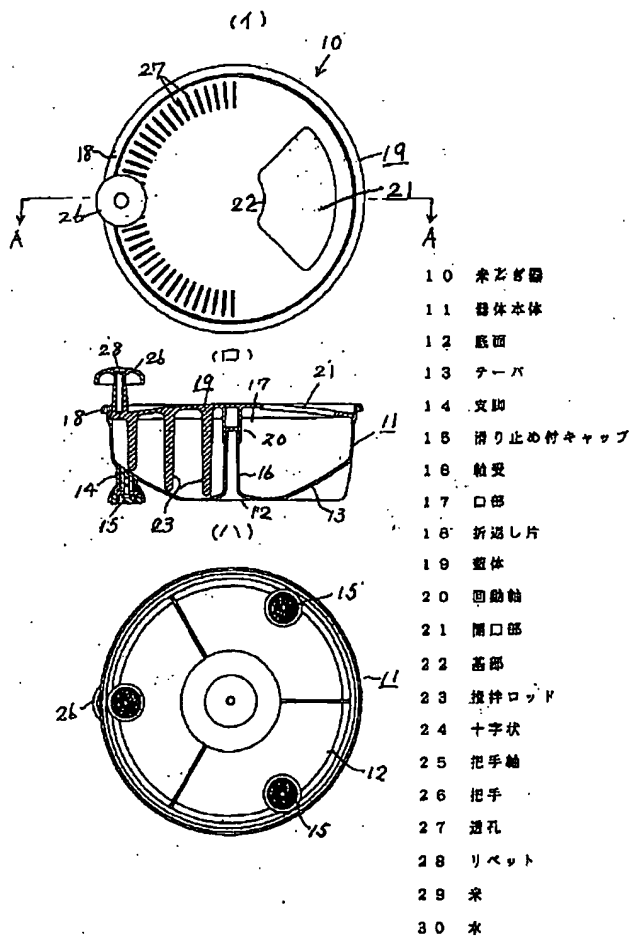
【図5】米とぎ器による米とぎ状態を示す図である。

【符号の説明】

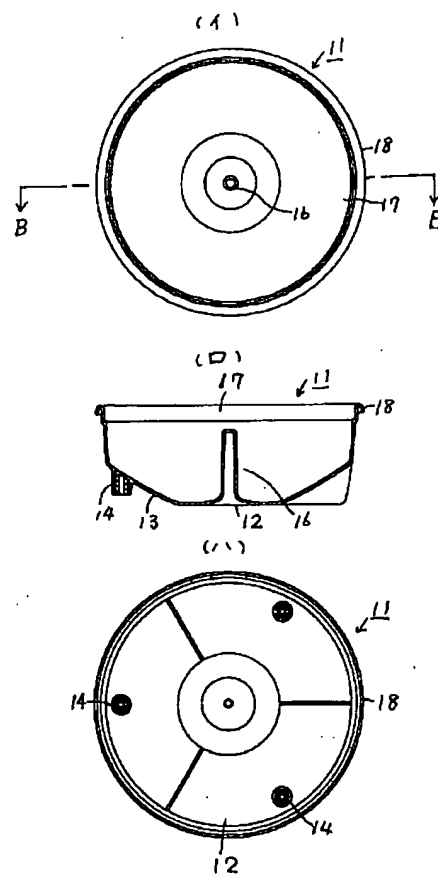
- 10 米とぎ器
- 11 器体本体
- 12 底面
- 13 テーパ

- 14 支脚
- 15 滑り止め付キャップ
- 16 軸受
- 17 口部
- 18 折返し片
- 19 蓋体
- 20 回動軸
- 21 開口部
- 22 基部
- 23 攪拌ロッド
- 24 十字状
- 25 把手軸
- 26 把手
- 27 透孔
- 28 リベット
- 29 米
- 30 水

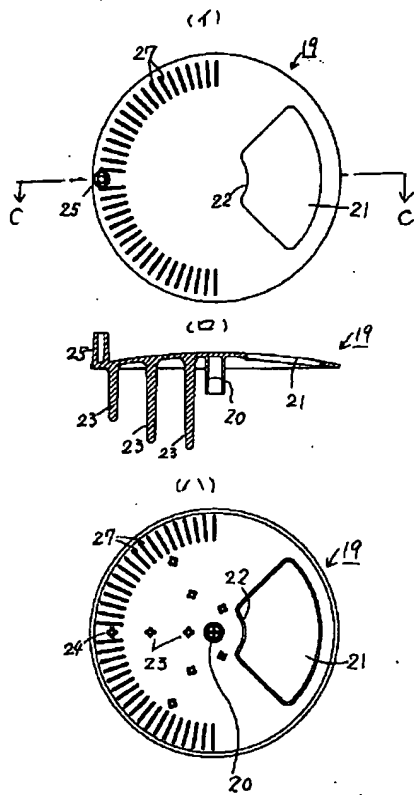
【図1】



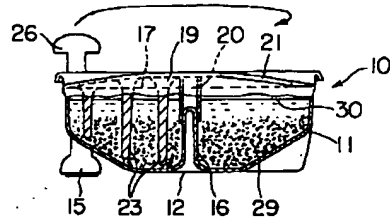
【図2】



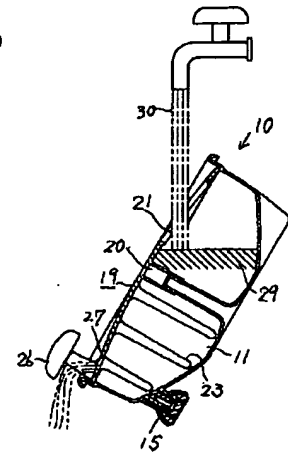
【図3】



【図4】



【図5】



PAT-NO: JP409182678A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 09182678 A
TITLE: RICE WASHER

PUBN-DATE: July 15, 1997

INVENTOR-INFORMATION:

NAME COUNTRY
KOSHIZUKA, YASUSHI

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME COUNTRY
KK KOSUMOSU N/A

APPL-NO: JP07352135

APPL-DATE: December 28, 1995

INT-CL (IPC): A47J043/24 , B02B001/06

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To easily perform rice washing without putting a hand into a container by providing a rice washer with a container main body having a bottom surface of a tapered form, a cover body provided with a handle for operation of rotation at a part of it, and plural agitation rods protruded from a lower surface of the cover body.

SOLUTION: A container main body 11 is formed in a flat circular form of stability, and a bottom surface 12 of it is formed to be tapered 13 from a center part to a circumferential edge. A support leg 14 is protruded from an outer bottom surface lower part of the container main body 11, and a cylindrical shaft bearing 16 is formed at an inner bottom surface center part of the container main body 11. An upper surface aperture in the container main body 11 is covered with a cover body 19, a rotary shaft 20 is protruded from a lower surface center part of the cover body 19 to be rotatably engaged with/ inserted into the shaft bearing 16 on the main body 11 side, and plural agitation rods 23 are protruded from a lower surface of the cover body 19 to be extended downward. The cover body 19 has an opening part 21 from which water and rice are charged, and a handle 26 for operation of rotation of the cover body 19 is fitted to a part of a circumferential edge part of the cover body 19.

COPYRIGHT: (C)1997,JPO